

# 強者の戦略

【ここから追い込む時期ですね】

こんにちは！世界史担当、北林でございます。朝晩めっきり過ごしやすくなりました。くれぐれも風邪など引かぬように気をつけてください。北林は声がかれてしまいました。反省です。うっとりする美声ではありませんが、ええ声を取り戻したいと思います。

さて、夏に模試をいくつも受けられた方も多いかと思います。結果がそろそろ返ってくるころですので、信頼できる方に必ず見せてアドバイスをもらってくださいね。今の時期は判定は参考程度と考えてよいと思います。それよりも今自分がどこが強くどこが弱いのか、それをはっきり分析して今後の学習の指針をつくる、それが大切かと思います。これから受験勉強の密度は濃くなる一方です。やるべきことを明確にしてがんばってください。

では毎度おなじみの世界史の入試問題へのチャレンジです。  
今回は阪大の問題を二つ掲載してみたいと思います。

問題 大阪大学 2003 年

東南アジア大陸部（インドシナ半島）五か国の現在の領土はおおむね、18 世紀の動乱後、19 世紀初頭までに成立した政治地図を原型としている。この政治地図はどのようなものだったか、当時の三つの主要な王朝と現在の五つの国名をすべてあげながら説明しなさい。

（120 字程度）。

研伸館では夏に「東南アジア・朝鮮史特講」が開かれましたが、国名や王朝名がわかれば簡単ですね。それではもう 1 問。

問題 大阪大学 1999 年

1902 年から 1922 年に至る日英関係の推移を、東アジアにおける諸列強の角逐と関連させながら、200 字程度で述べなさい。

こちらも流れが分かっていると簡単な問題です。ただし二問とも正確さが必要なので、そこは油断せず挑戦してください。

いきなり解答を書かなくてもいいので、構想メモ、下書き、を作成してみましょう。教科書など何を見てもよいので、怖がらず挑戦してください。次回に解答例と解説があがります。